

本時の見どころ

人口増加が続く菊陽町でも、少子高齢化という課題が迫ってきました。生徒は菊陽町を「もっと住み続けたい町」にするためには何が必要なのかを、「子育て」に注目して追究します。「子育てしやすい町づくり」とはどのような町なのか、そのために必要な政策を地域住民の一員として考えて議論し、よりよい政策へと練り上げ、行政の立場に立って菊陽町に提案します。

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時	平成30年10月30日（火）第2校時
場 所	菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 多目的教室
年 組	菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 3年7組 41名
指導者	菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 教諭 松岡 政晴

1 単元名 「地方自治と住民の参加」（教育出版 p.106~ p.115）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編【公民的分野】内容2－(3)「私たちと政治」の内容である。日本国憲法第92条には、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は地方自治の本旨に基づいて法律でこれを定める」とあり、イギリスのブライスは、「地方自治は民主主義の学校」と述べた。これからの日本を担っていく生徒にとって、「民主主義の学校」とされる「地方自治」の学習を通して、主権者の一人として、また、そこで生活する住民の一人としての自覚を育てることが大切である。住民自治を基本とする地方自治の基本的な考え方を理解し、自らの住むまちの住民の一人として地方自治の発展に寄与しようとする、自治意識の基礎を育てることを主なねらいとする。地域の課題やその解決のための方策について考え、地域住民の一人として身近な地域づくりに関心を持ち、まちづくりに参加する意欲を高めることが必要となる。

菊陽町は、豊かな自然と田園環境、恵まれた立地条件を活かした生活都市として発展してきた。近年では、菊陽バイパス沿いの土地地区画整理事業や下水道、生活道路などの都市基盤の整備や、光の森地区の住宅開発が進んだことで、人口が急増している。近年の大規模な住宅開発に伴い子育て世代が同時期に入居した菊陽町においては、今後、まち全体の高齢化が急激に進むことが見込まれ、超高齢社会への対応は喫緊の課題となっている。

身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連させて扱い、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てていく。本単元は、地域の抱える課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて考え、現代社会の見方・考え方を働かせる学習活動を取り入れることで、民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成に適した単元である。

(2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。

中学校 2 年生

【地理的分野】

第 2 編 日本のさまざまな地域

第 4 章 身近な地域の調査



中学校 3 年生 【公民的分野】

第 3 章 私たちの暮らしと民主政治

1 身近な地域の政治

2 暮らしを支える地域の行政サービス

3 住民参加で地域をつくる

4 変わりゆく地域社会

(3) 生徒観

本学級は仲も良く、間違いを恐れずに発言できる雰囲気があり、発表をする生徒が多い。ただ一問一答のような形式の質問では多くの生徒の手が挙がるが、思考・判断を要する形式の質問では、挙手をする生徒が少なくなる傾向がある。

また、本学級のこの単元に関わる意識・知識等についての事前アンケートは以下の通りである。(41人中39人が回答)

1) 菊陽町の人口は？	正解 : 3人
2) 菊陽町町長の名前は？	正解 : 25人
3) 菊陽町の良いところは何だと思えますか？ (複数回答)	商業施設の充実【15人】、自然が豊か【8人】、地域で交流が盛ん【7人】、病院が多くある【7人】、交通の利便さ【6人】、公共施設の充実【4人】、人口が多い【3人】、治安が良い【3人】、子どもが多い【2人】、あいさつをする【2人】
4) 菊陽町の課題は何だと思えますか？ (複数回答)	道路の整備【10人】、交通事故【7人】、ごみのポイ捨て【6人】、交通渋滞【5人】、少子高齢化【4人】、公園の充実【3人】、地域格差【3人】、介護施設の充実【2人】、特産物の知名度の低さ【1人】、商業施設の充実【1人】、公共施設の充実【1人】、子どもの医療費【1人】
5) 広報「きくよう」を読みますか？	毎月読んでいる : 3人 見たことがない : 12人 時々読んでいる : 24人
6) 菊陽町の取組(自治)に興味がありますか？	どんなことをしているのか興味がある : 2人 どんなことをしているのか少し興味がある : 13人 どんなことをしているのかあまり興味がない : 19人 どんなことをしているのか興味がない : 5人
7) 子育てに必要なもの(こと)は何だと思えますか？ (複数回答)	お金【11人】、愛情【10人】、保育所【6人】、環境【6人】、協力【4人】、病院【2人】、遊ぶ場所【2人】、相談所【2人】仕事【1人】、子どもと話す時間【1人】、育児のために仕事を休むこと【1人】、
8) 菊陽町の「子ども・子育て支援事業」について知っていますか？	はい : 1人 【知っていること】病院のお金、一人親に対して いいえ : 38人

自分の住む地域に対しての関心があり、良さや課題を認識していると思われる。しかし、良さや課題についてもイメージなどによる誤った認識をしている生徒もおり、自分の住んでいる地域に対しての知識が乏しいことも伺える。さらに、身近な地域の地方自治に関する興味・関心が全体的に低いことが分かる。

本単元で中心として扱う子育てに対しては、子育ての経験などは当然無いため漠然としたイメージとして認識していることが分かる。菊陽町の「子ども・子育て支援事業」についても知識としてもっていない。

(4) 指導観

本単元では必要な知識を確実に定着させ、獲得した知識を基に、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行い、公民的分野における考える力を育てたい。

- ・ 1次と2次では、住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治や、財政の仕組みについて理解させ、確実にその知識を身に付けるようにしたい。
- ・ 学習課題が生徒にとって自分の生活に関連するものであることが実感でき、自ら考えようとする意欲につながるように、教材や導入の仕方を工夫したい。
- ・ 現代社会の諸課題をとらえる視点を活かして、具体的な事例から身近な地域社会の問題を考えさせ、住民として主体的に地方自治にかかわる意欲を育てていきたい。
- ・ 生徒一人一人が地方自治の学習を通して自分の住む地域の課題やその解決のための方策について考え、地域住民の一人として身近な地域づくりに興味・関心を持ち、まちづくりに参画する意欲を高めさせたい。

3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	地方公共団体の政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとする。
社会的な 思考・判断・表現	住民自治を基本とした、地方公共団体の政治に関わる様々な事象から課題を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
資料活用の技能	地方公共団体の政治に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
社会的事象についての 知識・理解	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組みについて菊陽町の事例をもとに理解している。

4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全6時間 本時 6/6）

次	時	主な学習活動	評価
1	1	「身近な地域の政治」 ・ 地方自治のしくみを理解する。 ・ 地方公共団体における政策決定の過程を理解する。	・ 地方自治体の政治が首長と地方議会によって行われていることを理解し、地方自治の仕組みについて知識を身に付けている。【知識・理解】

単元を貫く課題：菊陽町を「住み続けたい町」にするために、行政としてできることを考える。			
2	1	「暮らしを支える地域の行政サービス」 ・地方公共団体の仕事と、地方財政の財源や使途、また抱えている問題点について理解する。	・地方公共団体の財政についての財源や使途について理解している。 【知識・理解】
3	1	「変わりゆく地域社会」 ・住民がもつさまざまな権利とその意義を理解し、各地で特色ある条例がつけられていることについて説明する。	・教科書や資料集から、「住民投票」や「特色ある条例」に関する情報を集め、それを分かりやすくまとめている。【技能】
4	1	「住民参加で地域をつくる」 ・菊陽町民アンケート、保護者へのアンケート、人口ビジョンの資料をもとに、菊陽町が直面する課題とその原因を明確にする。	・アンケート結果と菊陽町の人口ビジョンの資料から、今後の課題について読みとることができる。【思考・判断・表現】
5	1	「まちづくりのアイデア提言①」 ・菊陽町の課題である少子高齢化問題を解決するために、子育てしやすい町づくりを実現するための解決策を、G Tを交えて考える。	・持続可能な町をつくるために、できることを考えようとしている。 【関心・意欲・態度】
6	1 (本時)	「まちづくりのアイデア提言②」 ・考えた解決策を、地域の実態を踏まえて議論し、クラスで一つの政策を提案する。	・これからの菊陽町の発展に向けて、必要なことを多面的・多角的に考えることができる。【思考・判断・表現】

5 本時の学習

(1) 本時の目標

菊陽町の子育てに関する課題を踏まえ、さらなる菊陽町の発展のために必要な解決策を様々な視点から多面的・多角的に考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習内容	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材資料等	
導入	5分	1 前時で考えた政策を確認し、最終的に絞られた3つの政策を確認する。	一斉	○前時で考えた自分の考えと、班の考え、クラス全体で絞った3つの政策の共通点を考えさせる。	プレゼン資料	
展開	35分	学習課題：7組議会で「子育てしやすい菊陽町」のための政策を提案しよう				

		2 3つの政策について、班から説明をする。	一斉	○3つの政策の違いと、それぞれの優先度が分かるように整理する。 ・保育士になるための支援制度 ・職場内に子どもを預けられる施設	PC
		3 各班の意見に触れながら、効果があるかないか、課題があるかないかの視点で整理をする。	一斉	○「より多くの人の利益となるか」「持続可能な政策か」「何を優先して考えるか」の視点をもとに整理を行うようにする。	ワークシート
		4 発表について、質疑応答する。	一斉	○キーワードを示して考えを深めさせる。 <u>家庭を中心とした政策</u> <u>地域住民を中心とした政策</u> <u>企業を中心とした政策</u> ○政策などを提案する時には、必ず賛成意見・反対意見があり、それぞれに価値(考え)が含まれていることを説明する。	
		5 クラスで提案する政策を採決する。	一斉	○質疑応答の内容、自分は何を優先すべきかを考えた上で採決をする。	
		6 役場の方からの話を聞く。	一斉	○自分たちの考えと比較しながら、お話を聞くように促す。	
まとめ	10分	7 単元を貫く課題に対するまとめをする。	一斉	○学習を振り返らせる。	ワークシート

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：地域住民の一員として、菊陽町を「住み続けたい町」にするための政策を、家庭・地域住民・企業の3つの視点から考えることができている。 B：地域住民の一員として、菊陽町を「住み続けたい町」にするための政策を、家庭・地域住民・企業のうち2つ視点からの考えることができている。